

# BASE Vol.95

実践的基礎知識 環境変化確認編(4)  
 <通貨建てによって異なる各資産間の相関>

2019/07/04

## 通貨建てによって異なる各資産間の相関

各資産間の相関を見る際には、どの通貨建てでデータを取得するかが非常に重要です。どの通貨建てで計測するかによって各資産間の相関は異なります。実際の分散投資を考える場合には、為替ヘッジを利用しヘッジコストも加味して各資産の特性を把握したりするなど、現実に応じた工夫が必要です。

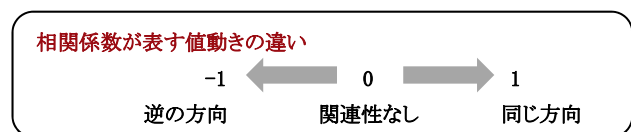
### 値動きの違いを把握する相関係数

効果的な分散投資を行うためには、値動きの向きが異なる資産を組み合わせることが重要です。この値動きの向きを調べるのに便利な数値が「相関係数」です。

相関係数は、2つのグループの数字が同じ方向に動く度合いを-1から1の間の値で表します。相関係数が1に近づくほど、2つのグループの数字の値動きは同じ方向に動きます。そして値が0に近づくにつれ関連性がなくなっていく、-1に近づくほど逆の方向に動くことを示しています(図表1)。

各資産間の相関を見る際には、どの通貨建てでデータを取得するかが非常に重要です。どの通貨建てで計測するかによって各資産間の相関が異なるからです。

図表1:相関係数



#### 当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものではありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

実践的基礎知識 環境変化確認編(4) <通貨建てによって異なる各資産間の相関>

通貨建てによって異なる各資産間の相関

右側に通貨別相関係数をお示しいたしました(図表2)。上段が米ドルベース、下段が円ベースです。青色の○で囲んだ部分をご覧ください。各資産間の相関が異なっていることが確認できます。米ドルベースで各資産間の相関やリスクを見て最適化を図って運用しているファンドに日本から投資をしても、米ドルベースと同様のパフォーマンスは得られません。投資資金が円ならば円ベースでの相関やリスク特性などを計測してポートフォリオを構築していくことが必要です。

図表2:通貨別相関係数

相関(米ドルベース) 期間:2012年~2017年	日本株式	先進国株式	新興国株式	日本REIT	世界REIT	先進国債券	日本債券	先進国債券	新興国債券	金(円ベース)	金(ドルベース)	米ドル建て新興国債(ヘッジ)	米ドル建て新興国債	米ドル建て先進国債	米ドル建て日本債
日本株式															
先進国株式	0.75														
新興国株式	0.63	0.75													
日本REIT	0.29	0.18	0.24												
世界REIT	0.42	0.52	0.31	0.43											
先進国債券	0.55	0.69	0.41	0.39	0.42										
新興国債券	-0.08	0.07	0.23	0.46	0.49	0.86									
日本債券	-0.24	-0.14	0.08	0.41	0.17	0.87	0.81								
先進国債券(ヘッジ)	-0.20	-0.18	-0.01	0.33	0.46	0.49	0.64	0.47							
金(円ベース)	0.07	0.25	0.27	0.12	0.17	0.07	0.13	-0.03	0.17						
金(ドルベース)	-0.06	0.06	0.28	0.31	0.22	0.64	0.62	0.61	0.38	0.76					
米ドル建て新興国債(ヘッジ)	0.63	0.65	0.69	0.13	0.52	-0.02	-0.05	-0.20	-0.19	0.21	-0.02				
米ドル建て先進国債	-0.22	-0.25	-0.02	0.28	0.42	0.58	0.68	0.55	0.93	0.12	0.42	0.31			
米ドル建て日本債	0.29	0.42	0.34	0.29	0.96	0.31	0.39	0.13	0.48	0.12	0.14	0.44	0.43		

相関(円ベース) 期間:2012年~2017年	日本株式	先進国株式	新興国株式	日本REIT	世界REIT	先進国債券	日本債券	先進国債券	新興国債券	金(円ベース)	金(ドルベース)	米ドル建て新興国債(ヘッジ)	米ドル建て新興国債	米ドル建て先進国債	米ドル建て日本債
日本株式															
先進国株式	0.87														
新興国株式	0.76	0.82													
日本REIT	0.42	0.54	0.30												
世界REIT	0.67	0.76	0.64	0.45											
先進国債券	0.14	0.15	0.45	0.15	0.37										
新興国債券	0.10	0.81	0.25	0.33	0.33	0.02									
日本債券	-0.28	-0.34	-0.25	0.23	-0.08	0.15	-0.24								
先進国債券(ヘッジ)	-0.34	-0.34	-0.23	0.14	0.14	0.42	-0.06	0.82							
金(円ベース)	0.10	0.22	0.28	0.17	0.20	0.25	0.21	0.17	0.16						
金(ドルベース)	-0.37	-0.33	-0.09	0.01	-0.21	0.39	-0.41	0.42	0.37	0.76					
米ドル建て新興国債(ヘッジ)	0.87	0.98	0.75	0.32	0.74	0.08	0.80	-0.36	-0.54	0.18	-0.58				
米ドル建て先進国債	0.61	0.68	0.43	0.23	0.64	-0.15	0.92	-0.20	-0.05	0.13	-0.50	0.71			
米ドル建て日本債	0.57	0.66	0.51	0.35	0.97	0.27	0.66	-0.08	0.17	0.15	-0.24	0.68	0.63		

実際の分散投資を考える

相関係数を意識して資産を組み合わせることで、全体の値動きを抑えた効果的な分散投資を行うことが期待できます。

実際の分散投資を考える場合には、為替ヘッジを利用したヘッジコストも加味して各資産の特性を把握するなど、現実に即した工夫が必要になります。

注:当資料では、相関係数が0.6以上の資産の組み合わせを十分な分散投資効果が期待しにくいものとしてグレーに、一定の分散投資効果が期待できる0以上0.6未満の組み合わせを白に、より大きな分散投資効果が期待できる0未満の組み合わせを赤に、それぞれセルを色分けして表示しています。

- 相関係数0.60~1.00
- 相関係数0.00~0.59
- 相関係数-1.00~-0.01

※米国REIT:MSCI米国リート指数、日本REIT:TOPIX-リート指数、世界REIT:S&PグローバルREIT指数、新興国株式:MSCIエマージング・マーケット指数、先進国株式:MSCIワールド指数、日本株式/米国株式:MSCI各国指数、日本国債:FTSE日本国債指数、米国国債:FTSE米国国債指数、先進国国債:JPモルガン先進国国債指数、先進国債(ヘッジ):JPモルガン先進国債(ヘッジ)指数、米ドル建て新興国債(ヘッジ):JPモルガンEMBIグローバル・ディバースファイド(ヘッジ)、金(ドルベース):ドル建て金スポット価格、金(円ベース):円建て金スポット価格。出所:ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

※将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。

データは過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

※当資料内で使用するMSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。